

# 地域と協同の 117号

## 研究センターNEWS

巻頭エッセイ

### 中山間地域の問題と生協

熊崎 辰広

地域と協同の研究センター会員・元生活協同組合コープぎふ職員



表記テーマの文章を、研究センターの奨励研究として、この3月になんとかまとめることができました。「中山間地域の問題」といっても、それを大上段に構えて論ずるといようなことは、私には手にあまることなので、今回は主として「T型集落点検」の手法を利用した地域活性化の試みを、実際の現場に立ち会って、その内容を報告することにしました。対象集落のある岐阜県の郡上市和良町では今年で4年目となる点検活動が続いています。その4年間の集落点検の内容をまとめてみました。岐阜県ではそのほか新たに2つの自治体が始めるなどの広がりがみられます。

もともとこの「T型集落点検」は、「限界集落」論の持っている欠点を指摘、限界集落の限界だけを論ずるのではなく、むしろその可能性について、それを住民自身が主体となって引き出そうという試みとしてはじめられました。その際、おおきなテーマとなるのが「家族」です。集落には、普段は老いた親が残るだけだが、正月やお盆にはその子らの世帯は帰省して、その時だけは集落到何倍もの人が集うだろう。その賑わいのなかから、なんとかUターン組を引き出す、それが最終の目的となっています。若い生産年齢の人口が増えることが集落到維持にはもっとも大切な条件となるわけです。そこまでの成果はまだないようですが、具体的に形あるものが成果として生まれつつあります。

たとえば、休耕田を利用した蕎麦作りでは、収穫祭のような祭りとともに、蕎麦粉をつかった「蕎麦饅頭」のような加工品が道の駅などで売られるようになりました。また、集落の豊かな歴史に着目し、いわばアイデンティティを求めて冊子が発行されたりしています。

そして、そのような集落と生協のかかわり方では、まず必要なのは商品配達の対応ができることで、その上で、限界集落を含む過疎集落としての特別な対応が、必要になる場合もあるということですね。生協の地域担当者はそのことを自覚すべきではないでしょうか。

**CONTENTS**

巻頭エッセイ 中山間地域の問題と生協	1
「未来を拓く協同の社会システム」発行記念研究集会	2
「生活協同組合の今と未来」	
環境パネル「中電 碧南火力発電所見学」	3
「石炭火力発電所」見て、お話を聞いて—その実態を実感できた!	
新年度に向けて領域別テーマごとの交流・地域での交流	4
地域別懇談会、パネルでの検討状況	
情報クリップ	5-7
企画案内・書籍案内	8

**研究センター 5月の活動**

7日(水) 事務局会議
12日(月) 総会案内・議案発送
14日(水) 常任理事会
16日(金) 環境パネル世話人会・三河地域懇談会実行委員会
20日(火) 暮らしを語りあう会・地域福祉を支える市民協同パネル世話人会・F職員の仕事を考える世話人会
21日(水) 食と農パネル世話人会・NEWS編集委員会
23日(金) 協同の未来塾 第3回
26日(月) 岐阜地域懇談会「第6回岐阜のつどい 白川佐見とうふ「豆の力」見学交流会
30日(金) 地域と協同の研究センター総会

## 「未来を拓く協同の社会システム」発行記念研究集会

# 「生活協同組合の今と未来」

4月20日（日）「ワークライフプラザれある」に於いて、「未来を拓く協同の社会システム」発行記念研究集会「生活協同組合の今と未来」を32人の参加で開催しました。当日は「未来を拓く協同の社会システム」で執筆された4人の方から、新たな問題提起も行っていただき、生活協同組合の実践家と意見交流しました。事務局で記録した講演の一部を紹介させていただきます。（文責：事務局）

冒頭小木曾洋司氏から挨拶があり、4人の執筆者の講演がありました。

向井 清史氏

（名古屋市立大学 大学院経済学研究科教授）

協同組合が直面している問題を3側面から、いったい協同組合ってどんな問題と今向き合っているのだろうかということを考えてみます。1つは事業環境の変化ということで、IT機器普及とか、ITの発達による事業のやり方の違いとか、それから、物流の革命です。2つ目に社会的アイデンティティ、組合員になっていることの社会的意味みたいなものを持っているかということです。3つ目は、組合員アイデンティティ、組合員さん個人は一体どんなことで協同組合というものを必要にしているのだろうかということです。

小木曾 洋司氏

（中京大学 現代社会学部准教授）

地域の観点から生活協同組合をどのようにとらえるのか、どこに意義を見出したらいいいのかということを改めて考えてみました。生活という概念と地域という概念が分離してしまい、そのことが私生活を支えるものが必要になって、その中に生協が1つあるという形で、生協の発展の基礎がそこにあったということです。私生活というものができ、地域から切り離され、人間の自由という



ものができてきた。ところが商品供給という形で私生活は成り立ちます。そういう意味では生協は同じことをしているわけですが、企業の目的は利潤ですけれど、生協は必要が基本になる、必要というものを強く考えてみたいということです。

近藤 充代氏

（日本福祉大学 経済学部教授）

民事ルールを使っても、なかなか自力救済できない消費者をどうすればいいのか。消費者の権利ということをよりどころに考えます。消費者の権利は、消費者運動の高揚と共に広く認知され、法制度の中にも現時点では入ってきています。これを現代的に豊富化することが必要であるということです。もう一つはこの権利を主張するには、消費者自身がその内在的制約を自覚する必要があるのではないかということです。新自由主義的政策がアピールしてきた消費者像というものを、消費者自身が打破して、乗り越えていく必要があると考えて内在的制約ということを考えてみました。

朝倉 美江氏

（金城学院大学 人間科学部教授）

社会福祉は、人生の中での困難を社会の中でどのように解決していくのか、社会政策として、相談援助、福祉サービスの提供ということで解決していくという分野です。その時に、その人が暮らしていくコミュニティを変えていかなければ、生活は改善されない、問題の本質の改善はできないというスタンスで地域福祉という分野が生まれ、今は社会福祉法という法律の中でも、地域福祉を推進するという風になってきています。地域を変えていく、一人一人が生きていくときにコミュニティというものを意識しながら、そこを生きやすいものに変えていくということが生協には求められているところではないかということです。

## 環境パネル 『中部電力 碧南火力発電所見学』

(文責:事務局)

## 「石炭火力発電所」見て、お話を聞いて—その実態を実感できた!

4月11日(金)環境パネル世話人で中部電力の碧南火力発電所の見学に行ってきました。「たんトピア(電力館)」で所長さんより、火力発電の概要や電力供給の考えなどについてお話を聞き、実際に発電所の建屋を見学しました。

これまで「原発事故と私たちの暮らし」学習交流会で放射能の影響や原発に頼らない・暮らしの見直しの学習交流、「暮らしの工夫」発信もしてきました。今回は、私たちのエネルギーがどうあるべきか、結論付けるのではなく、まずは実態を見て考えていこう、という発電所見学の第1弾企画です。

## 1. 碧南火力発電所の概要、環境対策

碧南火力発電所は、中電唯一の石炭火力発電所で、広大な敷地、208万 $\text{m}^2$ (名古屋ドーム40個)。国内最大、世界でも最大級の出力410万kWの発電所で、ベース電源として昼夜運転しています。愛知県の半分くらい供給できる量の293.2億kWh(中電全体1371億200万kWh)の電力量。燃料の石炭は、比較的価格が安い、世界の各地から輸入(LNG、石油は、中電は中東から輸入)しているそうです。

環境保全設備として、発電設備くらいある排煙処理装置は、窒素酸化物(NOX)の除去、ばいじんの除去、硫黄酸化物の除去をしている。中央制御室では監視モニターで燃焼、排煙など自動監視して、「地震があった時、煤塵が多く出た時など人が判断して対応する」とのことです。愛知県との公害防止協定値のばい煙排出基準、大気汚染防止法排出基準値1mg以下で運転されて、煙突の煙は実際に見えませんでした。



▲煙突の周りには、環境保全設備。

## 2. 中電による発電状況、再生可能エネルギー

発電設備容量は、3041.5万kW(浜岡原発は停止して361.7万kW抜き)。点検などあり最大2849万kW(他社へ融通125万kW含む)。昨年夏季のピーク(H25.8.22)時に、最大電力需要が2623万kWで供給力は2724万kWあり、予備率は3.9%だったそうです。

碧南火力は、中電全体の半分もの2300万tのCO<sub>2</sub>を出している。CO<sub>2</sub>発生防止で、火力発電の熱効率の向上、自然エネルギーによる発電を目指すとのことです。バイオマス発電をしているが、木質チップを石炭1ヶ月88万tに対して年間12万tの混焼で「燃料が高くもうちょうど」。再生可能エネルギーは「出力は安定していない」「火力などで出力調整している」、今後の展開は「国の指導の下での推進」という。新しい火力発電所では、熱効率の高い、CO<sub>2</sub>排出が少ないLNGを燃料としたコンバインド式火力発電設備が導入されている、また、石炭のガス化複合発電で実用化になりつつあり、次のステップへ進める事ができる、との話もありました。

## 3. 感想、課題や問題点など

「ワゴン車でセキュリティーのしっかりとした中、発電所内見学を見せていただいた。セキュリティーシステムのレベルは高い」「中々みせていただけない所をみることができ世話人で良かったと実感!」「原子力発電所停止での電力供給不足による大規模停電はない」と思った。「あれほどの大きな施設、広大な土地は、あまりにも大規模化、集中化がすすんだ結果か。」「消費者としてどんな発電所、エネルギーがほしいか選ぶことも出来ないような本当に大きな施設だ」「輸入に頼っている原料の石炭のロスなどをなくすなど前向きのお話が伺えたらもっと良かった」「風力や太陽エネルギー、バイオマス分で発電所内の電気使用料がまかなえています!なんて言っていたらなんて夢物語かも知れません」「自然エネルギーはコストがかかる、と国の政策が変わり言われるようになった」「再生可能エネルギーの電力会社の姿勢を伝えていこう」などの意見が出されました。

今回はお楽しみオプション企画で、コープ“きらず揚げ”でお馴染みの生産者「石川とうふ」でまめぞう定食を食べ、「焼きたて焼餅がおいしく、麩のイメージを一新できた」という「麩や銀」工場見学をしました。次回は、武豊火力発電、メガソーラーの見学を7月16日に企画し、継続して考え合っていくことにしています。



▲中央制御室



▲石炭を小麦粉大に粉砕する巨大なミル機

新年度に向けて 「領域別テーマごとの交流・地域での交流」方針案 （文責：事務局）

## 地域懇談会、パネルでの検討状況

5月30日の第14回総会議案には、領域別テーマごとの交流・地域での交流の方針案があります。この方針案は、各地域懇談会、4つの領域でのパネルで、新年度に向けた相談がされ、まとめられてきました。新年度に向けた、領域別の交流・地域での交流の方針案の検討状況について、一部ですがご紹介します。

### 1. 2回のアンケート、2回の理事会グループ討議

今総会の大きな議題となっている「第3期中期目標」は、会員への2回のアンケートをお願いし、研究センター理事会では2回のグループ討議を行って、団体会員へ意見を伺うアンケートもお願ひしてきました。それらを踏まえて「第3期中期目標と2014年度～2016年度計画（案）」になっており、まとめ表も資料になっています。その柱である「研究センターの活動を、地域を軸にした活動にしていくこと」を受けて、各地域懇談会、4つの領域でのパネルでは相談をすすめています。

### 2014年度事業計画の柱

「第3期中期目標の柱は、研究センターの活動を、地域を軸にした活動にしていくこと、として提案されています。これまでつくってきた研究センターにおける場合は、地域を軸とした活動実現につなげ、求められるあり方を実践の中でつくり上げていきます。そのために2014年度は、2013年度までに積み上げてきた活動を土台に、地域を軸とした研究センター活動について研究センターでつくるそれぞれの場で考え合い、そのあり方を探求し、実践の中で仕組みづくりをすすめます。」

（総会議案P13より）

### 2. 「三河地域懇談会」実行委員会の話し合いより

「10回の地域懇談会を重ねて、引き続き場があることは大切。誰かが用意してくれるものでなく、会員が自立してできるようにしたい。」

▼昨年11月 第10回三河地域懇談会  
「豊川市のまちおこしに学ぶ」



「企画はいいが参加が広がらない。若い世代も、生協の組合員も敷居が高いイメージがある。」

「会員の活動や研究の発表の場、交流の場というのもいい。会員同士の教えあい、学びあいとして。」

「研究センターのテーマを地域で集まりやすいところで、これからどんなふうに関与させるのか、ポイントになる」などの意見があり、「研究センター、なんのためにつくったのか。」とも出され、研究センター設立趣意書、研究センターとは？を読みました。

そして、三河地域懇談会の方針案は、「これまで三河の各地域で、地域の方や団体と交流し、地域づくりなど考え合ってきた活動を継続していきます。またそこで得られた情報の発信をしながら、生協組合員や職員が気兼ねなく参加でき、生協の地域活動にもつながる活動を考えていきます。」

となっています。5月16日第2回地域懇談会実行委員会では具体的な活動について相談しています。

### 3. 食と農（食をささえる地域農業と食育）パネルの話し合いより

これまでの「継続できる地域農業のあり方」を考えあう取り組みを踏まえて、今後の活動に向けて意見を出し合っています。「生協の食と農の活動に役に立つようになるといい。」

「仮説を立てて検証しないとイケない。必要な情報発信していくのが役割だと思う。」

「場をつくるのは大事。去年中間のまとめの学習会やった。今年はそういう場をつくったらどうか。」

「単協の活動について知ることも必要ではないか。単協から参加してもらうことはできないか。」

「生協の食と農の活動に役に立つようになるといい。」などの意見が出されました。

▼昨年7月「地域農業について学習会」

そして、食と農（食をささえる地域農業と食育）パネルの方針案は、「これまでに取り組んできた継続できる農業のあり方についての学習会や調査の結果を踏まえ、2014年度は『食と農』について、協同組合・市民協同組織のみなさんにも参加いただき、考えあう場をつくりたい。その上で、各生協・市民協同組織の『食と農』の取り組み支援のため、調査活動を継続して行っています。」となっています。5月21日の世話人会では、具体的な活動計画を相談しています。



# 情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>▶生協が「職場」と「地域」で 取り組む男女共同参画</p> <hr/> <p>COOP「生協運動」改題 <b>NAVI</b> 2014.5 746 日本生活協同組合連合会</p>	<p>▶特集 生協が「職場」と地域で取り組む男女共同参画 目指す男女共同参画は誰にとって働きやすい職場づくり—コープあいち</p> <p>&lt;僕らは商品探偵団&gt; みんなに知ってほしいフェアトレード生産農園限定セイロン茶 &lt;全国のラブ・コープ・キャンペーンをお知らせ&gt; コープ商品総選挙、全国で開催中 &lt;進化する生協の店づくり&gt; みやぎ生協 明石台店 &lt;こんにちは! 生協女子です!!&gt; こうち生協 三野佳奈さん &lt;宅配・現場レポート&gt; 仲間づくりマネジement ② コープさっぽろ &lt;CO・OPニュースフラッシュ&gt; 京都生協 コープ共済連 &lt;つながろうCO・OPアクション情報&gt; 地域の方みんなが参加できる交流の場 &lt;明日のくらしささえあう COOP共済&gt; コープさが 共済推進グループ &lt;生協人の基礎知識&gt; 第2回 生協の組織と運営 &lt;この人に聴きたい&gt; プロスキーヤー・登山家・博士(医学) 三浦豪太さん</p>	<p>2014年 5月 A4版 35頁 定価 350~円</p>
<p>▶ 緑のいのち、育てよう</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 <b>COMCOM</b> 2014.5 560 日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p>▶特集 緑のいのち、育てよう [インタビュー] 植物を中心に人と人をつなぐ 園芸家 深町貴子 フィールドデザイナー 深町康志</p> <p>[レポート] 四季を通じて実りの屋上庭園 北医療生協 生協若葉の里 (名古屋市) [バンビのつぶやき⑩] 農家民宿やりたーい 本のおもちゃ屋 店主 中根桂子</p> <p>[住まう⑩] 住まい探しにサポートを(後編) NPO法人かけはし(岡山県倉敷市) [介護十人十色⑩] 心のかよったケアのために訪問介護職員の学びと交流 東京都生協連 訪問介護職員の研修のとりくみから</p> <p>[TOMOそだち⑩] 今後の地域医療を担う家庭医には女性の力が求められている [協同のある風景] 216 何も無いところからするけん 協力・共同で皆が集まるんよ —無人駅からはじまった地域づくり— 愛媛医療生協 今治西支部</p>	<p>2014年 5月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>▶生協は現代の 「経営危機」を 克服できるか</p> <hr/> <p>くらしと協同</p> <p>2014.増刊号</p> <p>くらしと協同の研究所</p>	<p>プロローグ 生協は現代の経営危機を克服できるか 北川太一</p> <p>シンポジウム</p> <p>基調報告 研究所の20年、これまでとこれから ~生協の「経営危機」をめぐる 濱岡政好</p> <p>解題 シンポジウムを開催するにあたって 鈴木勉</p> <p>研究報告 日本経済の現局面をどうみるのか ~くらし・雇用・地域経済の観点から 豊島裕二</p> <p>研究報告 生協のガバナンスと地域・組合員 ~おおさかパルコープの事例を中心として 庄司俊作</p> <p>実践報告 経営危機克服に向けての課題 夏目有人</p> <p>実践報告 パルコープにとっての経営危機とは何か、 その克服と今後の課題 池 晶平</p> <p>コメント 二場邦彦</p> <p>分科会</p> <p>第1分科会 生協にとって組合員の存在とは? 小池恒男</p> <p>第2分科会 生協らしい職員の働き方は? 杉本貴志</p> <p>第3分科会 生協らしい事業とは何か 北川太一</p> <p>特別分科会 3, 11東日本大震災後のくらし方の変化と協同組合の役割 濱岡政好</p>	<p>2014年 4月 B5版 68頁</p>

▶貧困問題と  
生協の取り組み

生活協同組合研究

2014.5  
460

(財)生協総合研究所

- 巻頭言 アジアを訪ねて30年 -都市や農村は変わったか- 赤石和則
- ▶特集 貧困問題と生協の取り組み
  - 貧困と社会的孤立 宮本みち子
  - 生協組合員のくらしと貧困の関係
    - くらしの相談事例を通して考える- 志波早苗
    - グリーンコープ生活再建事業の取り組みと近況 行岡みち子
    - 誰もが安心して暮らせる“みやぎ”をめざして
      - みやぎ生協生活相談・家計再生支援貸付事業
      - 「くらしと家計の相談室」の現状とこれから- 小澤義春
    - 医療生協が取り組む無料低額診療事業の意義
      - 現代の日本社会における「社会事業の開拓的役割」として- 杉山貴士
- コラム1 突然お金が必要になったら
  - 契約者貸付制度の検討- 齋藤真吾
- コラム2 諸国の消費者金融の状況 熊倉ゆりえ
- コラム3 フランスの個人をめぐる金融システム及び多重債務者の状況と取り組み 鈴木 岳
- 子育てを通じた地域参加の場づくりへ
  - コープみらい・ちばエリアの子育て支援12年のあゆみから 林美栄子
- 海外情報
  - アメリカにおける原子力エネルギーと代替エネルギー
    - デボラ・シュタインホフ 監訳 栗本昭
- 新刊紹介
  - 読売新聞生活部編著『こうして女性は強くなった-家庭面の100年』 亀田篤子

2014年  
5月  
72頁  
B5版

▶農業所得の  
向上について考える

月刊 J A

2014.5  
711

全国農業協同組合中央会

特集 農業所得の向上について考える ~販売戦略

- 【論説】 青果物における安定的契約的取引に向けたサプライチェーンの構築 福田晋
- 【解説】 新たな販売事業方式にかかる考え方について JA全中営農・農地総合対策部
- 【報告】 事例に学ぶ販売戦略
  - ① JA小松市営農部6次産業化プロジェクトチーム
  - ② JA紀の里販売部直売課
  - ③ JA全農えひめ畜産部
  - ④ 伊東正裕(香港貿易発展局)
- 【トレンド】 ネット販売とJA
  - ・きずな春秋 -協同のこころ- 童門冬二
  - ・地方紙ニュース 第38回
    - ブランド米へ期待大きい良食味「きぬむすめ」 岡村博 (新日本海新聞社)
  - ・直言! JAへのメッセージ 万博を舞台に食の海外交流を
    - 加藤辰也 (2015年ミラノ国際博覧会陳列区域日本政府代表)
  - ・組合長インタビュー 野菜を軸に、皆が成り立つ地域複合目指す
    - 滋賀県JAこうか 代表理事組合長 但馬 -
  - ・地域・支店から『戦略』を考える 「地域営農ビジョン運動の多様な主人公」
    - 一般社団法人 JC 総研 基礎研究部 主任研究員 小林元
  - ・展望 JAの進むべき道 「JA 交流事業のめざすもの」 伊藤澄一
- ・海外だより [DC通信] 36 動きの取れないオバマ政権 古林秀峰
- ・見せましょう、協同の底力!
  - みんなの力で、都市と農村をつなげる (後編)
  - 一社一村運動 (韓国および静岡県) 青山浩子
- ・次代へつなぐ協同実践塾
- ・持続可能な農業の実現
  - 農地中間管理事業の活用による担い手への農地利用集積
  - JA全中営農部・農地総合対策部
- ・豊かで暮らしやすい地域社会の実現 いま JA 交流事業が注目されている
  - JA全中くらしの活動推進部

2014年  
5月  
A4版  
64頁  
年間購読料  
4,800  
円(送料込)

<p>▶里山資本主義と協同労働運動</p> <hr/> <p><b>協同の発見</b></p> <p>2014.3 257</p> <p>協同総合研究所</p>	<p>■巻頭言 人間性回復と生命のつながりー里山資本主義と協同労働を地域でつなぐ 岡村信秀 (広島県生活協同組合連合会会長理事、会員)</p> <p><b>特集 里山資本主義と協同労働運動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対談『里山資本主義』から構想する、地域資源を活かした仕事おこし 和田芳治(人間幸学研究所所長・逆手塾会長) 永戸祐三(日本労働者協同組合連合会 理事長)</li> <li>・鼎談『里山資本主義』の実践からケアの本質を学ぶ 井上恭介(NHK広島放送局 報道番組チーフ・プロデューサー) 熊原保 (社会福祉法人優輝福祉会 理事長) 永戸祐三(日本労働者協同組合連合会 理事長)</li> <li>・里山資本主義×協同労働運動 ～自伐林業で木の復権、協同労働で輝ける場の創造～ 伊藤剛 (ワーカーズユープセンター事業団 関西事業本部 事務局長)</li> </ul> <p>■連載 ・自然エネルギー・協同組合方式の探求 ④ インドネシアの水力ポテンシャルと技術ネットワーク 藤本穰彦 (九州大学大学院工学研究院 特任教授 / 会員) 島谷幸宏 (九州大学大学院工学研究員 教授)</p> <p>■海外レポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外から読むイタリア社会的経済 (11) イタリア プーリア州で再生可能エネルギー事業に取り組むメルピニャーノ・コミュニティ協同組合 ～その設立経過と社会的背景をめぐって～ 田中夏子 (研究者・協同総研理事)</li> <li>・第45次欧州労働者福祉視察団に参加をして ～イタリアの実践を見て社会的協同組合を考える～ 相良孝雄 (協同総研 事務局長)</li> </ul> <p>■立ち上げ現場から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーカーズユープ愛知三河福祉事業所 放課後等デイサービスいっぽ 櫻井早苗 / 相馬綾香 / 高野厚子</li> </ul>	<p>2014年 3月 A4版 109頁 定価1300円</p>
<p>▶ポストTPP農政の全体像</p> <hr/> <p><b>文化連情報</b></p> <p>2014.5 434</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p><b>農協組合長インタビュー (5) 組合員は地域を良くしていく仲間</b> 高橋慶典 武藤喜久夫</p> <p>絞り込まれる7対1入院基本料と地域包括ケア病棟の新設 畑幸彦</p> <p>院長リレーインタビュー (276) 二木学長の医療時評 (121) 7対1病床大幅削減の実現方向性と妥当性を考える 二木立</p> <p>医療連携セミナー「2014年度診療報酬制度の概要と経営対策」 平間好弘</p> <p><b>ポストTPP農政の展開 (2) ポストTPP農政の全体像</b> 田代洋一</p> <p>医療・介護総合法案を受けて農協福祉の課題を展望する 東公敏</p> <p>第4回厚生連メディエーター養成研修会 (基礎編) 報告 ロールプレイで当事者の思いを実感 馬場勇太</p> <p>「病院を背負わない」立ち位置 杉本功</p> <p>岡田玲一郎の間歇言 (124) 「線路は続く」のエッセイに想う病院経営の将来 岡田玲一郎</p> <p>薬剤耐性結核のよりよい治療実現に向けて 小磯 明</p> <p>診療報酬にみる官僚表現は難解の極み 耕 翁</p> <p>清張と出かける古代史の旅 村上一彦</p> <p>非営利事業に地域力の創造 ー「食」、エネルギー自給を担う協同組合の役割 高橋 巖</p> <p>伊賀の里モクモク手づくりファーム(2) バランス良い3つの事業で売り上げ伸ばす 小磯明</p>	<p>2014年 3月 B5版 80頁 文化連情報 編集部 03-337 0-2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(※)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

# 2014年くらしと協同の研究所 第22回総会記念シンポジウム

●6月28日(土)～29日(日) ●京都テルサ(JR京都駅(八条口西口より南へ徒歩15分))

6月28日(土) 13:00～16:50 シンポジウム

「生協事業のイノベーション～いま、コブみやざきを研究する意味～」

第22回総会17:00～17:50

(18:00～19:30懇親会)

◆締切:6月16日(月)

◆定員150名になり  
次第々切

6月29日(日) 9:30～12:30 分科会(テーマ別企画)

- ①「組合員のくらしを知る・活かすこと～『パーティ』を通じた取り組みの共有～」
- ②「TPPとは何か～多国籍企業による食と農の支配にどう立ち向かうか～」
- ③「東日本大震災から私たちは何を考えるのか～ぢほこくな!(うそつくな)!!」

【問合せ・申込先】くらしと協同の研究所 京都市中京区夷川通烏丸東入ル西九軒町291せいきょう会館2F  
Tel.075-256-3335 Fax.075-211-5037 E-mailkki@ma1.seikyone.jp(1は数字)

➡参加費は有料です。ホームページでご確認ください。詳細は⇒<http://www.kurashitokyodo.jp>

書籍案内

## デフレの正体 経済は「人口の波」で動く

著者:藻谷浩介 発売日:2010年06月09日

定価(税込):782円 判型:新書判 出版社:角川書店



内容:「生産性の上昇で成長維持」というマクロ論者の掛け声ほど愚かに聞こえるものはない。現実には内需にマイナスに働いているからだ。「現役世代人口の減少」、日本の問題はここにある!誤った常識を事実で徹底的に排す!

### 目次

第1講 思いこみの殻にヒビを入れよう 第2講 国際経済競争の勝者・日本 第3講 国際競争とは無関係に進む内需の不振 第4講 首都圏のジリ貧に気づかない「地域間格差」論の無意味 第5講 地方も大都市も等しく襲う「現役世代の減少」と「高齢者の激増」 第6講 「人口の波」が語る日本の過去半世紀、今後半世紀 第7講 「人口減少は生産性向上で補える」という思いこみが対処を遅らせる 第8講 声高に叫ばれるピントのずれた処方箋たち 第9講 ではどうすればいいのか1. 高齢富裕層から若者への所得移転を 第10講 ではどうすればいいのか2. 女性の就労と経営参加を当たり前

第11講 ではどうすればいいのか3. 労働者ではなく外国人観光客・短期定住者の受入を 補講 高齢者の激増に対処するための「船中八策」

角川書店ホームページより

2014年5月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 川崎直巳

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

### 研究センター 6月の活動予定

4日(水) 事務局会議

6日(金) 岐阜地域懇談会世話人会・新旧顧問懇談会

9日(月) コープあいち総代会 10日(火) コープぎふ総代会

11日(水) 協同の未来塾第4回 12日(木) コープみえ総代会

19日(木) 第9回生協職員の仕事を語る会

・F職員の仕事を考える世話人会

20日(金) 三河地域懇談会実行委員会

・協同の未来塾企画委員会

21日(土) とうかい食農健サポートクラブ総会・記念シンポ

23日(月) 理事ゼミ世話人会

28日(土)・29日(日)くらしの協同研究所総会